

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 21 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2012

課題番号：21390600

研究課題名（和文） 地域特性に応じた一人暮らし高齢者の自立支援プログラムの標準化と評価法の確立

研究課題名（英文） Program development and evaluation for health promotion of the elderly living alone in the community

研究代表者

田高 悦子(TADAKA ETSUKO)

横浜市立大学・医学部・教授

研究者番号：30333727

研究成果の概要（和文）：研究の目的は、大都市で社会問題化している社会的孤立を予防し、健康長寿にむけた施策の確立に向けて、一人暮らし高齢者自立支援プログラムを標準化するとともにその評価ツールを開発することである。研究方法は疫学研究である。研究の結果、一人暮らし高齢者と地域住民を対象とする健康教育プログラムを提示するとともに「地域志向性尺度」ならびに、「地域高齢者見守り効力感尺度」の日本語版ならびに英語版を開発し、その信頼性、妥当性を検証した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the study was to develop and evaluate of the health promotion program for the elderly living alone in the community, forward establishment of the public health policy, which set for health promotion. The survey for local governments and elderly people in ordinance-designated cities in Japan was conducted. As the results, Community Commitment Scale and Self-Efficacy Scale for Reciprocal Support in Community for the Elderly demonstrate considerably high the reliability and validity as an assessment tool for community-dwelling elderly.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2011年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2012年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
総計	13,400,000	4,020,000	17,420,000

研究分野：地域看護学

科研費の分科・細目：地域・老年看護学

キーワード：地域、高齢者、健康、環境、世帯類型、公衆衛生

1. 研究開始当初の背景

我が国の一人暮らし高齢者数は一貫した増加を続けている。その数は1986年には、128万人（65歳以上人口に占める割合13.1%）であったが、2006年には、410万人（同22.4%）となり（総務省、2006）、今後、2026年には、680万人（同32.3%）に達することが予測されている（国立社会保障・人口問題研究所、2008）。

極めて最近の調査（内閣府、2008）によれば、一人暮らし高齢者のうち「日常生活で不安のある者」は前回調査（2005）の41.2%より63.0%に、また、不安のある者で「頼れる者のいない者」は16.8%より30.7%に大幅に増加している。さらに、具体的な不安の内容は「自分の病気・介護」が34.9%と最も多く、次いで「孤独感」30.7%、「災害（緊急）時の対応」26.1%、「外出時の転倒や事故」

20.4%、「家事の困難感」18.0%と続く。すなわち一人暮らし高齢者が保健予防上のニーズを有する対象であることは明らかであり、また、この一人暮らし高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を継続することができるような支援の創出が、我が国の超高齢社会における焦眉の課題の一つであることは明白である。

本課題に関連する研究動向についてみると、欧米では、一人暮らし高齢者の心理的、社会的、身体的特性や課題については、数多くの記述的研究があり、他の世帯類型に比してその自立度は高い傾向があるものの、緊急時の対処や日常の保健予防行動に課題を有する着眼すべき population であることが指摘されている (Tomassini C, 2004)。また、その支援については、例えば、社会資源情報の提供 (Guzman JS, 2004) や孤立感を緩和する方策 (Gustavson K, 2004) の必要性などが示唆されている。

一方、わが国でも、一人暮らし高齢者の実態は同様に記述されており、一人暮らし高齢者の生活様式には、地域特性があることが報告されている (Tadaka, 2007)。しかしながら、欧米においても、我が国においても、これらの示唆を踏まえた、具体的な支援プログラムやシステムの開発、ひいては、評価方法の開発に踏み込むような実証的な研究については、その必要性が提言されるのみで、本課題は、学術的にも、また施策的にもまだほとんど検討されていない。

このような中で、本応募課題は、応募者らの研究グループが、近年、その具体的なプログラムの開発に着手した「地域特性に応じた一人暮らし高齢者における自立支援プログラム」の標準化ならびに同評価方法の確立を提言するものである。このような実証的な研究は、国内外において未だ蓄積がない。以上から、本研究は、我が国では勿論のこと、今後、我が国に続いて超高齢社会を迎える他の先進諸国においても必至となる一人暮らし高齢者の自立支援に向けて、学術的、かつ施策的にも先駆的な実証的研究として位置づけられる。

2. 研究の目的

本研究の構想は、超高齢社会の到来とともに急増している我が国の一人暮らし高齢者に対し、地域での自立した生活の継続を可能にする自立支援システムを構築することである。その構想に向けた本研究の目的は、同システムにおける具体的な一方策として応募者らが開発した地域特性に応じた自立支援プログラムについて標準化することであり、かつその評価方法を開発し、学術的・施策的有用性を検証することである。

3. 研究の方法

関西圏ならびに関東圏の地域住民を対象とした疫学研究である。研究は4カ年計画であり、Phase I (21年～22年度)、Phase II (23年～24年度) からなる。

Phase I では、まず、地域特性に応じた一人暮らし高齢者の自立支援プログラムについて評価ツール(暫定版)を開発、評価した。

また、Phase II では、同ツールについて臨地に適用し、信頼性、妥当性ならびに有用性の観点から検証した。

なお、本研究は、研究代表者の所属する研究機関の倫理審査委員会による承認を得て実施された。

4. 研究成果

一人暮らし高齢者と地域住民を対象とする健康教育プログラムを提示するとともに一人暮らし高齢者の自立支援プログラムについて評価ツールとして、「地域志向性尺度」ならびに、「地域高齢者見守り効力感尺度」の日本語版ならびに英語版を開発し、その信頼性、妥当性を提示した(尺度名は仮称)。

すなわち両尺度は、専門職、一般住民ともに2因子8項目からなる因子構造を有しており、地域志向性尺度8項目の信頼性係数(クロンバック α)は、0.7以上であり、地域高齢者見守り自己効力感尺度8項目の信頼性係数は0.8以上であった。

さらに地域志向性尺度は、短縮版 Sense of Community ならびに地域高齢者見守り効力感尺度の2項目との併存妥当性が確認され、地域高齢者見守り効力感尺度は、短縮版 Sense of Community ならびに GCS-R(丸島)の下位概念(世話)との併存妥当性が確認された。なお、両尺度ともに、専門職の得点は一般住民よりも高くなっていた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)(すべて査読あり)

- ① 田高悦子, 河野あゆみ, 臺有桂, 金谷志子: 大都市の一人暮らし男性高齢者の社会的孤立にかかわる課題の質的記述的研究, 日本地域看護学会誌 15:4-11, 2013.
- ② Kono A, Tadaka E, Kanaya Y, Dai Y, Imamatsu Y: Development of a Community Commitment Scale with Cross-sectional Survey Validation for Preventing Social Isolation in Older Japanese People, BMC Public Health, doi:10.1186/1471-2458-12-903.2012.

- ③ 田高悦子, 河野あゆみ, 臺有桂, 金谷志子: 大都市における一人暮らし男性高齢者の地域を基盤とした自立支援プログラムの開発と有効性の評価, 日本地域看護学会誌 14:53-61, 2012.
- ④ 河野あゆみ, 田高悦子: 大都市に暮らす独居男性高齢者の生活課題と自立支援: 公衆衛生, 76(9)702-705, 2012.
- ⑤ 藤田俱子, 河野あゆみ, 丸尾智実, 田高悦子, 国井由生子: 独居男性高齢者を対象にした食事バランスガイドを用いた健康教育の試み, 日本地域看護学会誌, 14:49-54, 2011.
- ⑥ 河野あゆみ, 丸尾智実, 藤田俱子, 田高悦子, 国井由生子: 独居男性高齢者のための地域交流促進をめざしたグループワークにおけるプロセス, 日本地域看護学会誌. 2010:12(2):45-50.
- ⑦ 河野あゆみ, 田高悦子, 岡本双美子, 国井由生子, 山本則子: 大都市に住む一人暮らし男性高齢者のセルフケアを確立するための課題: 高層住宅地域と近郊農村地域間の質的分析 日本公衆衛生雑誌. 2009:56(9):662-673.
- [学会発表] (計 8 件)
- ① Kono A, Tadaka E, Kanaya Y, Dai Y, Imamatsu Y, Itoi Y: Development of a community commitment scale to prevent elderly social isolation in urban areas, The Gerontological Society of America's 65th Annual Scientific Meeting, San Diego, CA, USA, November 14-18, 2012.
- ② Kono A, Tadaka E, Kanaya Y, Dai Y, Imamatsu Y, Ito Y: The effects of age and experience on community support among volunteer to prevent elderly isolation. The Gerontological Society of America's 65th Annual Scientific Meeting, San Diego, CA, USA, November 14-18, 2012.
- ③ 田高悦子, 河野あゆみ, 金谷志子, 藤田俱子, 臺有桂, 糸井和佳: 地域高齢者の見守り活動評価尺度の開発: 地域高齢者見守り効力感尺度第 2 報. 第 30 回日本看護科学学会. 札幌コンベンションセンター (北海道). 2010 年 12 月 3 日~4 日.
- ④ 河野あゆみ, 田高悦子, 金谷志子, 藤田俱子, 臺有桂, 糸井和佳: 地域高齢者の見守り活動評価尺度の開発: 地域志向性尺度第 1 報. 第 30 回日本看護科学学会. 札幌コンベンションセンター (北海道). 2010 年 12 月 3 日~4 日.
- ⑤ 河野あゆみ, 藤田俱子, 水野智実, 田高悦子, 国井由生子: 独居男性高齢者への自立支援プログラムの開発と評価 (第 4 報): プログラム「地域でのおつきあい」の検討. 第 29 回日本看護科学学会学術集会. 幕張メッセ (千葉県). 2009 年 11 月 27 日~28 日
- ⑥ 田高悦子, 国井由生子, 河野あゆみ, 藤田俱子, 水野智実: 独居男性高齢者への自立支援プログラムの開発と評価 (第 1 報): 健康管理セルフエフィカシーと地域共生意識への効果. 第 29 回日本看護科学学会学術集会. 幕張メッセ (千葉県). 2009 年 11 月 27 日~28 日.
- ⑦ 水野智実, 河野あゆみ, 藤田俱子, 田高悦子, 国井由生子: 独居男性高齢者への自立支援プログラムの開発と評価 (第 2 報): 「死別後の男性独居高齢者の心の変化と対応」. 第 29 回日本看護科学学会学術集会. 幕張メッセ (千葉県). 2009 年 11 月 27 日~28 日.
- ⑧ 藤田俱子, 水野智実, 河野あゆみ, 田高悦子, 国井由生子: 独居男性高齢者への自立支援プログラムの開発と評価 (第 3 報): プログラム「食事のバランスを考える」の検討. 第 29 回日本看護科学学会学術集会. 幕張メッセ (千葉県). 2009 年 11 月 27 日~28 日
6. 研究組織
- (1)研究代表者
田高 悦子 (TADAKA ETSUKO)
横浜市立大学・医学部・教授
研究者番号: 30333727
- (2)研究分担者
河野 あゆみ (KONO AYUMI)
大阪市立大学大学院・看護学研究科・教授
研究者番号: 00313255
- (3)連携研究者
臺 有桂 (DAI YUKA)
横浜市立大学・医学部・准教授
研究者番号: 00341876

今松 友紀 (IMAMATSU YUKI)
横浜市立大学・医学部・助教
研究者番号：80589599

金谷 志子 (KANAYA YUKIKO)
大阪市立大学大学院・看護学研究科・講師
研究者番号：00336611

糸井 和佳 (ITOI WAKA)
横浜市立大学・医学部・助教
研究者番号：30453658

藤田 俱子 (FUJITA TOMOKO)
大阪市立大学・医学部・講師
研究者番号：00453134
(平成 23 年：連携研究者終了)